



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行 / カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

復活の主日A年（2026年6月7日）

主任司祭 小西広志神父

第一朗読：申命記 8章2-3・14b-16a節

第二朗読：コリントの信徒への手紙1 10章16-17節

福音朗読：ヨハネによる福音書 6章51-58節

【三つの朗読のあじわい】

第一朗読：神さまのはからいを思い起こす

四十年間の荒れ野時代に、ずっとはからってくださった神さまのわざが思い出されるのが第一朗読です。神さまは、関わり、配慮し、はからってくださる方なのです。神さまによる試しはありますが、それは神さまが人間とより親しくなるための試しのようなものです。

2節にある「四十年の荒れ野の旅」という表現を覚えましょう。これは、エジプト脱出から約束の地までの間、イスラエル民がさまよった旅のことです。荒れ野は15節にあるように、炎の蛇とさそり、水の無い、渴いて広く、恐ろしい場所です。そこでは人間は、ただ自分の力だけではなく神さまの力に頼らざるを得ません。

荒れ野は神さまと出会う場所であり、神さまの配慮、計らいを体験する場所となります。40年間の旅を通して、イスラエルの民は荒れ野で神さまと出会いました。メリバの泉、マナ、うずら、青銅の蛇といった神さまの側からの無償の関わりを体験しました。

本節では、モーセによる回想という手法を用いて、荒れ野時代に神さまがなされた計らいが今もあるのだ、生きているのだというのが示されています。

第二朗読：人はパンだけで生きるのではなく、神の言葉によって生きる

16節の「あずかる」は興味深い表現です。ギリシア語ではコイノーニアーと言います。「結びつき、近しさ」という意味と「与る、参与する」の二つの意味が考えられます。

神さまのはからいを信じるとは、神の言葉に信頼をおくことに他ならないのです。こうして、人は神とのコイノーニアーを生きるようになるのでしょう。

福音朗読：あなたたちの内に

パンであるイエスさまは、食べられたいイエスさまです。わたしたちがイエスさまと深く結びつくためにイエスさまはパンとなるのです。こうして、コイノーニアーはイエスさまのパンを通して、実現していきます。

わたしたちの人生に照らしあわせながら、あじわってみましょう。

神の言葉で人間は生きます。なぜなら、神の言葉はいのちそのものだから（ヨハ1章4節）。イエスさまは人となった神の言葉（ヨハ1章14節）。そのイエスさまのからだであるご聖体をいただいてわたしは生かされる。

ある女性の神秘家は、人生の終わりに次のように書き記しました。

「苦しみ、愛、あらゆる徳の実践によって変えられたわたしは、『これはわたしのからだ、わたしの血である』というあなたの魂の叫びと一つにさせていただいて天へと昇っていきたい」。

（メキシコの神秘家、福者アルミダ・コンシェプション・カブレラの言葉）

ご聖体なしのわたしの人生はあり得ない。

お知らせ

能登半島地震 支援報告会

6月27日 午後5時より6時まで アントニオ会館にて、

名古屋教区の片岡神父さまがいらしてくださって、能登半島の様子を伝えてくれます。

支援のための物品の販売会もあります。

どうぞ、皆さんご参加ください。